開催地名	北海道帯広市
開催日時	令和 7 年 7 月 29 日（火）　18:30 ～ 20:00
開催場所	とかちプラザ 2F　レインボーホール※住所は不要
語り部	大峪　やす子（三重県紀宝町）
参加者	帯広市町内会連合会及び帯広市危機対策課他帯広市民　約 40 名
開催経緯	水害への備え 特に地域での活動を詳しく聞きたいため
内容	下記文頭の印について⇒　『･』地域活動、『❖』災害発生、『◎』受賞 〈津本地区自主防災会発足の経緯〉 　2011 年（平成 23 年）8 月 30 日　台風 12 号による豪雨で紀伊半島大水害が発生。 奈良県、和歌山県、三重県の 3 県にまたがる半島最大の熊野川が浸水状態。 熊野川上流（奈良県）にある 5 つのダムが一斉に放流。 　合流地点の相野谷川が氾濫し、濁流とありとあらゆる物が流れて来た。 電線に流木が引っ掛かり道路の水が引かない等のインフラが途絶え、大里地区の避難所に行くことができなかった。 大里地区の中にいくつかの地区があり津本地区にも避難所が欲しい、津本地区にも自主防災会が必要。 2012 年（平成 24 年）津本地区自主防災会が発足。 2013 年（平成 25 年）3 月　高台に津本防災センターが完成。 ここでは防災の拠点、集まりの場、安心して避難できる場所として活用。 〈自主防災会の主な活動など〉 　平成 24 年 　❖2 月 紀宝町に風水害を対象とした国内初のタイムラインを策定。 　　3 月 大里地区にタイムラインが導入。 　　タイムラインとは、防災に関わる人々が連携し事前調整を図り、 　　台風等に対するそれぞれの役割、対応行動を定めたもの。 　･11 月 23 日 初めての防災訓練

	消防団による放水訓練、炊き出し訓練。 平成 27 年 ･6 月 避難所運営「HUG」の演習 子供から高齢者が混ざり各班で意見を出し合い避難所の運営体験を行う。 ❖7 月 台風 11 号が発生し相野谷川が増水。 タイムラインが発令され、外国人を含む津本住民が津本防災センターへ早めの避難。 ･8 月 台風 11 号のふりかえりについて、タイムラインワークショップを開催 ･9 月 避難所運営の模擬訓練 10 月に開催される避難所運営訓練へ向けての講師を呼び、事前体験。 仮設トイレや猫の砂を準備、三角巾の使い方、ハイゼックスでの食事作り簡易担架の搬送方法を学んだ。 ･10 月 子ども支援ネットワーク構築事業　防災教室「避難所運営訓練」 相野谷小学校･相野谷中学校･大里地区住民が参加、相野谷中学校校舎内で実施。各やくわり班が事前に設営準備、避難者住民（参加者）を受け入れ（受付）揃ったところで防災訓練がスタート。9 月に学んだ模擬訓練を生かし小中学生や住民へ伝えることができた。 ◎12 月 みえの防災奨励賞、受賞 平成 29 年 ❖8 月 台風 10 号が発生。 タイムラインにより、タブレットで行政と地区の情報共有。 防災無線では警戒レベル４避難開始情報があり避難勧告を発令。 津本地区の状況がよくわかり、避難者は前もって、おにぎり持参で避難。 タイムラインの情報は、次から次へと入って来ますが、避難者達はテレビがあっても、映らないので情報が分からず不安でした。この不安を解消してくれたのが、三重テレビデレクター。テレビが映るようになり、高齢者は安心して避難所に行く事が出来た。被害はでませんでした。 ダム放流中の掲示版が設置。熊野川の水位がよく分かるようになった。

	新しく戸別受信機が配布。防災無線がはっきりと聞き取れるようになった。 平成 30 年 ・6 月 和歌山県広川町　稲むらの火の館、津波防災教育センター視察 ❖7 月 西日本豪雨 津本地区住民に義援金を募り紀宝町へお渡し。 ・9 月 防災訓練 役に立つロープの結び方を学ぶ。 平成 31 年 ・1 月 第 1 回防災チャレンジ大運動会 子供から高齢者までが参加。「備蓄に必要なものは？」「ケガ人が出ています」などお題に合わせて物資を選ぶ親子での借り物競争。 高齢者たちに、ゴミ袋で作ったポンチョをプレゼント。 災害時にトイレが使えない時の実演。 令和元年 ・6 月 京都市市民防災センターへ研修 強風体験、地震体験、消防ヘリコプターのシミュレーター ・6 月 防災訓練 風呂敷やズボンで作ったリュック、新聞紙で作ったスリッパを製作。 ・7 月 夜間防災訓練 ペットボトルでランタン・レジ袋でおむつ・ブルーシートで寝袋の作り方を学ぶ。翌朝は全員でバケツリレーの実施、保育園児も参加。 令和 2 年 ・1 月 小学生とトリアージ訓練 ・2 月 第 2 回　防災チャレンジ大運動会「テーマは南海トラフ大地震が発生」 子供達の地震・防災啓発ポスター作品を掲示。 熊野消防署の方と行う、煙ハウスの中で行う煙体験、放水訓練、消火訓練。

	ケガ人の対応、簡易担架の作り方を習う、アルファ米で昼食。 ・5 月　新型コロナ感染症対策における避難行動の問診票を津本全世帯に配布。 ・6 月　津本防災センターに於いて消毒液作り。 ・7 月　新型コロナ感染流行下の避難所開設・運営訓練 パーテーションの組立、簡易ベッド設置、職員はマスクなどの感染対策し避難者が来場。発熱者の対応など指導してもらう。開催後に意見交換会。 ・7 月　球磨川で氾濫が起きた球磨村へ募金 ❖9 月　記録的短時間大雨情報が発令 ・子供たちへアンケート 通学路で見つけた危険な箇所を募集。内容を町と小・中学校に提出。 町の支援を受けてポールコーンの設置が実現。 ・みえの防災レシピコンテストに応募 令和 3 年 ・1 月　津波に備える防災訓練 紀伊半島大水害から 10 年の節目。参加した小学生は紀伊半島大水害を知らない。経験を風化させず教訓を後世に残すことを防災訓練で学んでもらう。 ・1 月　避難場所の確認 海抜 20m以上で避難出来そうな場所に、目印として赤い旗を掲げた。 ・2 月　第 3 回防災チャレンジ大運動会 子供達のコロナ啓発ポスターを掲示。車中泊の説明、小学生による防災〇×クイズ問題。避難所での生活は大声が出せないので、ジェスチャーで相手に伝えて欲しいものを届けるジェスチャーゲーム。 ・7 月　防災訓練 講話を聞き自宅から津本防災センターまでの危険な場所や避難経路の確認を歩いて調査。危険な場所や災害時要支援者等を地図に書き込み「MY まっぷラン+」に落として行った。 ・11 月　紀伊半島大水害 10 年防災訓練 航空機によるケガ人の救出救助訓練、給水槽の説明、電源確保の方法、

	通信環境確保訓練、緊急物資輸送車訓練。 ◎12 月 みえ地震･津波対策の日、シンポジウムにてみえの防災大賞を受賞 ･12 月 紀宝町総合防災訓練 紀宝町一斉に開始。ケアータッピングタッチを学ぶ。 令和４年 ･3 月 みえの防災大賞受賞を記念して津本防災センターにクマノザクラ苗木 3 本を植樹。 ･5 年 令和 4 年度 三重県･和歌山県･徳島県･高知県の 4 県連携自主防災組織交流大会 令和 5 年 ◎2 月 防災まちづくり大賞受賞。 〈まとめ〉 紀伊半島大水害から 14 年。あの年に生まれた子供は中学生に。今では水害を経験した人ですら当時の記憶は薄れて行く。私達に今できることは「いざ」というときに経験から得た知識を呼び戻すこと。家族の糸･地域の糸、それらを幾重にもつむぐことで地域を守る太い絆が生まれる。 防災は糸をつむぐ作業。「大切な命を守る」これからも活動を続けていきます。
開催地より	温暖化による気候変動で災害が増えつつあり、地域柄水害被害が多く備えに関して参考にしたい。特に地域での活動を詳しく聞きたい。